

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズサポート・きらら		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 6日		2024年 11月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2024年 11月 20日		2024年 12月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 26日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	同じ法人内の他事業(相談事業や生活支援事業)と連携を図り、ご利用児の将来へ向けての福祉サービスへ繋げることができること。	ご利用児が当所を利用する前後の時間帯を同法人の生活支援と連携し、ご利用児が生活支援の一時ケア等を利用することで家族支援にも繋がる取組をおこなっている。	同法人内の生活支援事業と定期的情報共有する場を設けることで、ご利用児の支援をより充実することができる取組を継続していく。
2	専門性の高い療育がおこなわれていること。 言語聴覚士・心理担当職員・児童指導員5年以上のスタッフの専門職だけでなく、社会福祉士、保育士、強度行動障害基礎研修修了者等、スタッフ全員が専門的資格を有しており、それぞれが資格を生かしながら支援することができる。	毎日おこなう打ち合わせや振り返りで情報を共有するだけでなく、必要に応じてその都度ご利用児の個別支援に必要な取組の仕方や方法をスタッフ間で話し合い、それぞれの意見を考察し合いながら支援を改良している。	定期的に研修をおこなったり、外部の研修に参加する機会を設けたりすることで各スタッフの知識を高め、支援に生かしていく取組をおこなえるようにしていく。また、事例検討等ご利用児一人ひとりを考察するミーティングをおこない、より良い支援方法を共有していく。
3	定期的に家族向けの勉強会を開催し、福祉サービスについて情報提供をおこなったり研修する場を提供したりしていること。	同じ法人の他事業より講師を招き、学齢期の家族にとって将来に向けて必要な情報を提供している。学齢期にはまだ必要としないことでも、成人へ向けて必要になっていく福祉サービスを主なテーマとしておこなうようにしている。	家族向け勉強会の参加者へアンケートをおこない、勉強会でおこなってほしいテーマや希望を伺い、必要に応じて同じ法人にこだわらず外部の講師も呼ぶ機会を設けることも検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	バリアフリー化されていないこと。 1階の活動部屋が土足環境であること。	施設への設備投資に限りがあるため、大幅なリフォーム等の工事は難しい。	危険な箇所の点検をスタッフ全員が目視確認し、危険予測を踏まえて修繕箇所がある場合は速やかに修繕していく。 また、1階の活動部屋も2階のように靴を脱いで活動できる環境に整えられるよう検討していく。
2	活動部屋を分けておこなうことにより、全てのご利用児にとって心地良い環境にならない場合があること。	活動部屋を1階と2階に分けておこなっている。ご利用児のアセスメントやモニタリングに基づいて部屋割りをしているが、曜日のメンバーによって、必ずしも全てのご利用児が好む環境にできない場合がある。	当所では、障がい特性や実際に活動した様子等様々な点を考慮し部屋割りを決めているが、学年も考慮に入れて慎重に部屋割りやスタッフの配置を検討していく。また、活動してみた結果をモニタリングして必要に応じて改善していく。
3	デジタル化が進んでいないこと。	主な連絡手段が電話のため、仕事をしている保護者との電話のやりとりが双方難しい場合がある。	現在マチコミで配信することはおこなえているが、やりとりできるツールが電話以外にないため、ショートメールやアプリ等を用いる検討が必要である。